

国際貢献の取組

関東整備局では、国際協力機構（JICA）のコンボ・モンテネグロ国別研修「Eco-DRRを軸とした防災・減災研修」に協力し、群馬県桐生市の大規模山火事跡地の復旧・再生の取組について講演と現地視察を行いました。

■はじめに

コンボ国及びモンテネグロ国は、バルカン半島に位置する国土面積の約半分が森林で占められる国々であり、頻繁に発生する森林火災が森林生態系に与える深刻な影響の一つとなっています。

このため、両国では、2021年からJICAの支援により、森林火災等の自然災害の予防と早期警戒等のための「国家森林火災情報システム(NFFIS)」の開発・運用と、生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR）の試行を通じて、自然災害への対応力の強化を図るプロジェクトが実施されています。

■研修の状況

今回の研修は、プロジェクト実施機関の防災分野の関係者7名を対象に、日本国内の最先端の取組を紹介すること等を目的として、10月10日から20日までの期間で、林野庁、森林総合研究所をはじめ、群馬県桐生市、富山県、東京都、神奈川県の実験地等を訪問する行程で実施されました。

このうち、桐生市での研修は10月19日に行われ、午前中に関東整備局の担当者から、山火事発生時の状況や復旧・再生に至った経緯、事業実施から効果の確認・検証といった一連の取組内容とともに、群馬県や桐生消防署が実施している再発防止策等について講演を行いました。

参加者からは、自国との比較といった視点から、火災発生時の初期対応の詳細や、分取造林契約のメリット、所有者不明土地の取扱い等について質問がなされ、担当者から、日本における一般的な災害対応の仕組み等を含めて、一つ一つの質問に丁寧に回答や補足説明を行いました。

午後からの現地視察では、桐生消防署によるセンサーカメラの設置状況や群馬県による砂防ダムの施工状況等を視察しながら、復旧・再生箇所に移動し、契約地の概要、植栽計画から実行に至る経過、ブロックディフェンスによるシカ害防止対策等について解説を行いました。

特に、参加者からは「当初設定した計画に対して実行・管理が綿密に行われていることに感心した」、「一つ一つの作業が完璧に行われていることに驚いた」等の声があり、山火事跡地を着実に復旧・再生していることについて、高い評価と関心が寄せられました。

■むすび

森林整備センターでは、引き続き、このような機会を活用し、これまで水源林造成事業を通じて得られた知見や経験について、地域社会はもとより、国際的な取組の中においても、有効に活用いただけるよう取り組んで参ります。



講義の様子（参加者の質問に丁寧に回答）



現地視察の様子（取組経過等を説明）



山火事予防の横断幕前で集合写真を撮影

群馬県桐生市の大規模山火事跡地の復旧・再生の取組の詳細を季刊水源林第4号、森林整備センターwebサイトの技術情報に掲載しています。あわせてご参照ください。



発行

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター

〒212-0013 神奈川県川崎市幸区堀川町66-2 興和川崎西口ビル11階

電話：044-543-2500（代表） FAX：044-533-7277

Mail：info@green.go.jp HP：https://www.green.go.jp/



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

リサイクル適性
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。